

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176503165		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・大宮吉野町		
所在地	さいたま市北区吉野町1-356-1		
自己評価作成日	平成 29 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成29年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成29年11月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の重度化に伴い、外出をしたがらない方等が圧倒的に多くなり、室内でも季節感を感じられる様、装飾の工夫やプランターにて家庭菜園を行ない日々の生活が豊かになる様努めている。また、食の楽しみが一番喜ばれる為、出前の日を設けたり手作りおやつに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建ての2階部分を事務室を挟んで2ユニット利用としており、利用者の行き来もあり、効率良くゆとりある運営がなされている。2階エレベーターホール入口には、法人理念・事業所理念の他に基本方針としての“考える介護の実践”を挙げており、開設初期からの“38人大家族”目標からもホーム姿勢を知ることができる。管理者は、利用者の介護変化に合わせ無理な散歩より、穏やかに、与えられた空間での楽しみと笑顔を日常に求め、工夫の様子が見られる。職員と共におやつ作りで肉まんや小麦饅頭を作り、余った小麦粉でお焼き、焼き餃子を作って喜ばれた。運営推進会議の他に、家族会は、利用者や職員も加わって話が弾み、沢山の家族参加の場となっている。家族間でも以前の知り合いと出会う等、地域に特化した話題で盛り上がり笑顔が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で話し合い理念を決めエントランスに掲げ皆で共有している。	管理者は、38人大家族(利用者+職員)を自身の信条としている。法人理念の他、事業所目標として“みんな一緒に暮らしあえるホーム”とし、ケアに特化した基本方針も入口に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の盆踊り、運動会等の催し物等可能な限り参加して交流を深めている。	特別会員として自治会加入し情報を得ている。自治会主催の夏祭りでは、お神酒や奉納品として提灯を収めており、利用者の参加もある。小学生の課外授業も受けており、繋がりが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方からの電話での相談や、突然の見学があった際には、可能な限り相談に応じております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの取り組みについて報告しております。報告の中で出席者から得た意見や情報をケアに反映出来るよう努めております。	2カ月に一度実施しており、家族・地域包括支援センター・自治会長の参加がある。家族参加は通例では少ないが、家族会では多数の参加があり、地域の縁を感じている。外部評価の結果は報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故が発生し入院や通院に至った際には市町村へ報告しホームの状況を把握していただける様努めている。	区役所からは、オムツ券・理美容券が届き、事故報告等は市役所へ直接届けている。市主催の勉強会等には参加している。地域包括支援センターとの連絡は密である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進についての書面をエントランスに掲げ認識を高めている。また、拘束することで起こりうるリスクについても理解している。	毎月の職員会議で身体拘束及び虐待防止について話し合っている。言葉づかいで何気なく言っていることを職員間で課題として捉え、事例勉強の題材にもしている。特段に食事の早い方への対応を話し合い、様々な工夫を取り入れた事例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無理なケアを行わない様ケアカンファレンスを行い、個々のケアの方法等を話し合い、お互いに気持ちよくケアが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の際に包括支援センターの方に成年後見制度について話をしていた。また、ご家族より相談があった際には、主治医との掛け合い等のお手伝いをさせていただきました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、解約内容は勿論の事、質問事項もあわせ説明させていただいております。退去の際には介護連絡表を作成し転居先で困らない様支援しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明確にし、エントランスホールの見やすい場所に掲げております。また、直接だと話しづらいご家族へは意見箱を設置してご意見を頂き易い状況に努めております。	運営推進会議や家族会からの意見の他、日々来訪の際に意見を聞くようにしている。御手洗いでアルコール洗浄について意見を頂いたことがあり、対応した。空調機などハード面で本社へ意見を聞く事もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では職員の意見を取り入れ、職員、入居者が気持ちよく過ごせる環境を心がけております。	職員会議やフロア長経由で意見を貰う他、昼間勤務で話し合い、催事や消耗品等の提案を受けている。一時的な人員不足の場面での対応などを皆で話し合うこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて自己評価を行い、給料に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職階別の研修には必ず参加していただいている。また、自己啓発として、個々に必要な研修には、声を掛け参加していただいております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	委員会や研修を通して他ホームの職員と交流を図っております。フロア長交換研修では実際に他のホームで働く機会も設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時に必ず本人とお話し、気持ちを受け止め安心していただける様努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や実態調査時にはご家族の話しに耳を傾け、安心して任せていただける様努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の話を良く聞き、ケアプランや実際のケアに反映出来るよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を中心に入居者様の得意分野が発揮できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、スタッフ、入居者と共にレクをおこなったり、皆で会話をしながら過ごして頂くこともあり、信頼関係をより深めて行ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外、友人、知人の面会も認めている。また、文通や電話をされたりと交流を図っている。	古い友人夫婦で度々来訪があった方も身体変化から最近の来訪がなかったり、家族が友人を伴っても利用者が認識不可等変化が出てきている。家族との外出、外食は喜ばれ、毎週末に自宅外泊される方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間と隣席にしコミュニケーションが図りやすい様配慮している。孤立しがちな方には、世話や話好きな方と席を近くする等の配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族やご本人から、お手紙や電話を頂いたり、入院先、入居先に会いに行ったりと交流させていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直し時に、入居者、ご家族に意向を伺っている。聞き取りが困難な利用者様にはカンファレンスにて話し合い検討している。	普段からの接し方で分かることは多い。散歩への声掛けも断る方が多くなってきた。反面、おやつ作り(肉まん・小麦饅頭・お焼き等)に興味を持たれる。無理な散歩にならない買物同伴などを散り入れている。	開設13年を経て、現利用者の介護度にも変化が出てきている。どのような生活を希望されるか把握し、新しい入居者も現利用者と共に安心の生活ができる配慮を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力も得ながら、生活暦等の把握に努め、日々のケアに生かすようにしている。今までの生き方を尊重する姿勢を常に持つよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を細かく書く事により把握している。また、心身状況等は生活を共にする中で把握し状態が思わしくない時には原因追求をし早期解決出来るよう努めている。連絡ノートの活用、口頭での申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を生かしたプランになる様、サービス担当者会議を開催し話し合いの場を設けている。「～出来ない」というマイナスな考えではなく本人の意欲が引き出せる様な言葉を使いプランを作成している。	6カ月毎の見直しを基本としているが、見直しの1カ月半前から家族と連絡を取り始めている。カンファレンスでは生活記録からプランに取り入れるようにしており、担当者の本人把握が必須である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話の内容や行動、ケアの工夫新たな発見等を生活記録に記入している。また、個別にカンファレンスの記録も記入しケアプランの見直しの際に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況や本人の希望に沿いながら、介護タクシー等に協力していただき結婚式出席、墓参り等が実現できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	懐メロを唄ってくださるボランティアを招いたり、包括支援センター職員よりキャラバンメイトの講習、避難訓練では消防署に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関の説明をし、往診医がかかりつけ医になられている方がほとんどですが、精神科、神経内科等の受診の必要がある方は、入居前からの専門医にご家族の協力にて受診されている。	利用者の殆どが月2回の訪問診療を希望している。他、訪問看護師が週1回、歯科医月2回、歯科衛生士が月4回来所する。元からの精神科へ通う方はある。夜間の連絡網も出来ているが救急車要請もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問時には、入居者の健康チェック等を行い、入居者、スタッフの良き相談相手となっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にお見舞いに行き、状態把握に努めております。また、ご家族への連絡も密に行い、情報収集し早期退院に繋がる様努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた際には、医師、ご家族と相談し方針を決めて行く事になっております。また、重度化に伴い、ご家族への連絡を密に行い状態をみて頂きながら、ケアの方向性を話し合っております。	入居契約時に重要事項説明書にて指針説明を行っている。身体変化の中で家族の意向が変わることもあり、口から食事摂取が出来るうちは事業所で介護を行う。看取りの経験はないが、最期ギリギリまでみており、その後入院されるケースが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全対策会議、研修、職員会議等で勉強の場を設けておりますが、実践で身に付いて行く方が多いです。緊急時の連絡方法は周知徹底しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて避難方法等を消防署員に相談しながら身につけている。また、自治会加入により災害時には自治会消防団の方が駆けつけて下さる仕組みになっていると自治会長からお話がありました。	避難訓練は年2回実施し、1回は夜間想定としている。消防署の指導で、居室ベランダまで避難移動してほしいと言われている。マニュアルがあり、備蓄品も食料3日分は確保。水害は地域的に安心と言われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、穏やかで優しい言葉掛けを心掛けている。また面会簿は個々のページを設けると共に一目に付かない所で管理するほか他の個人情報に関する書類は施錠できるキャビネットに保管している。	SNS・ラインで仕事の話はしないこと徹底している。職員の意識が必要で職員会議や管理者会議での内容を周知している。利用者への声掛けは恥辱心を思い小さな声や場所を考慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や、～したいという希望には極力応えられるように配慮し、入居者様が快適に生活できるように努めている。買い物が行くのが困難な方には依頼を受けて職員が購入するなど、各入居者様が満足して下さる対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にいただき、日常生活の中で自己決定できる様、支援している。外出や～したいという希望には極力応えられるよう配慮し、入居者様が快適に生活出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各自で好きな服を着て頂いたり、化粧をされている。また、月1回の訪問美容では事前に入居者様から希望を伺い先方へ連絡している。希望をうまく伝えられない方には職員がフォローし身だしなみに注意を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者様と一緒に食事を摂っている。食事の盛り付け、後片付け等は無理強いない様配慮した上でお手伝いして頂いている。食べるスピードが同じ方と同じテーブルにする様配慮し自分のペースで召し上がれるよう努めている。	利用者にも食後の床掃き掃除などを手伝ってもらっている。特に喜ばれるのはおやつ作りの手伝いであり、中華おやき等で良い表情をされる。イベント食では、ノンアルコールの提供で大喜びされる方もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量の確認を行い状況によっては食事を促す声掛けを行っている。水分摂取に関してはチェック表を用いて水分量の把握をし状況により嗜好品などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師、衛生士からの助言を参考にしながら、毎食後個々に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンや動作レベルを把握し、声掛けや介助、場合によっては2人介助にてなるべくトイレで排泄して頂いている。トイレの介助を行う際にも羞恥心に配慮している。	排泄チェック表からパターンを掴んでいる。出来るだけトイレでの排泄を促しており、現在は多くの方がトイレでの立位が可能となった。夜間はポータブルトイレ使用の方やオムツ交換をする方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに薬に頼るのではなく、乳製品の活用・体操など身体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの動作レベルを把握し対応している。自立の方には入浴中のこまめな声掛け、不安を口にされる方には付き添い、介助を要する方に対しては場合によっては2人介助も行い、安心、安全に入浴できるように努めている。	週2回午前中を基本としているが、3回の方もある。拒否の方へは、声掛けのタイミングを工夫しながら進める。同性介助については、希望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠状況を把握し、なかなか眠りにつけない方には、安心していただけるよう傾聴、助言を行い利用していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報表は把握しやすい場所に保管しており、連絡帳を活用し、理解を促している。服薬の介助に関しては、職員間での確認、声だしチェックを行い、誤薬が起きないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事は勿論のこと、読み慣れた新聞、雑誌の購読、編み物、観葉植物の世話、買い物などの支援を行っている。またおやつを皆さんで作って頂き、活躍の場を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣にお店がたくさんある為、買い物目的の散歩等を積極的に行っている。また、近隣の公園にてお花見や盆踊りなどに参加をし、交流を行っている。	併設のショートステイ社用車で盆踊りへ出掛けている。伝統的行事(お花見・盆踊り)は声掛けし機会を作っているが、歩行困難な方が多くなり希望者も少なくなっている。家族と犬の散歩や、週末の外泊を恒例とされる方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、ご家族了解を得た上で、行っていただいている。管理が不安な方は、金庫でお預かりし必要な時にお渡ししている。使用時に混乱されてしまう方には職員がさりげなく付き添い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるようにしている。電話が掛かってきたらとりつぎをし、椅子を用意するなど、会話を楽しめるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エントランスには観葉植物や縁台を置き、日光浴を楽しめるようにしている。また、食堂や廊下には、電球色の照明にし居心地のよい暖かさの配慮をし動線には障害物がない様になっている。また、季節の装飾をほどこし、見て楽しめる環境に努めている。	リビングには季節感のある切り絵を掲示しているが、あまり華美に飾り立てず掲示板を設置している。照明はリビング・居室もLEDに変えており、照度も十分である。掃除は職員が行っているが、食後の掃き掃除は利用者も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エントランスには、日光浴を楽しめるスペースを設け、気の合う入居者同士で語り合ったり、一人で楽しまれたりと思いいに過ごされている。食堂の座席は相性の良い入居者様どうしで座れるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具以外にも入居前より使っていた家具を持ち込まれ入居者様の個性を大切にしている。	ベッド・タンス・クローゼット・エアコン他が備え付け備品となっている。カーテンも備えてあり防災で半年毎にクリーニングをしている。若い頃に作った人形を沢山持ち込んでいる方があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが設置され、動線にはシルバーカーを使用しても十分なスペースが確保されるよう障害物を置かないよう配慮している。		